

福井県公害センター年報

第 17 卷

1 9 8 7

Annual Report
of
The Environmental Pollution Research Center
of Fukui Prefecture

vol. 17

1 9 8 7

福井県公害センター

より快適で住みよい環境づくりのために

この年報は県民の皆さんに、環境問題の重要さと、関連する県施策への理解、協力を一層深めて頂き、21世紀へ向けて“より快適で住みよい環境づくり”を一体となって推進させていくために取りまとめたものです。

まず本県の環境状況は、公害の未然防止を最優先として規制・監視の強化、先見的な調査研究の徹底、分析・解析手法の開発など地道な取り組みを重ねてきたこともあって、幸い全般的には良好な生活環境を保っております。

しかし今日では、生活様式や価値観の多様化、都市化の伸展などで交通公害や生活雑排水汚染など「生活型公害」が目立ってくるとともに、特に本県では、北潟・三方の両湖沼の富栄養化問題が大きな焦点となってきております。

さらには産業の技術高度化、バイオテクノロジーなどのめざましい進展に伴う有害化学物質での環境影響、酸性雨やフロンガスにみられる地球規模の影響など、極めて複雑多岐にわたる環境問題を抱えております。

公害センターでは、こうした新しい流れに対応して、湖沼の富栄養化、酸性雨、有害化学物質等の調査研究にすでに着手しておりますが、今後も、なお一層力を入れて取り組んでまいります。同時に、大気汚染や水質汚濁、悪臭、騒音、振動など公害対策基本法に基づく各種公害についても、国・関係機関と連携を深め最新の環境・技術情報を収集する中で総合的な調査研究を継続してまいり所存であります。

なお、本年報は昭和62年度の事業概要、調査研究を中心に取りまとめたものですが、関係の皆様がたの卒直なご意見、ご指摘を頂ければ幸いと存じます。

昭和 63 年 11 月

福井県公害センター

所 長 前 田 土喜男

目 次

1 運 営 概 要

1 沿 革	1
2 機 構	1
3 業 務 内 容	1
4 人 員	2
5 業 務 分 担	3
6 人 事 記 録	4
7 事業実施概要	4
(1) 公害技術会議	4
(2) 公害技術研修会	4
(3) 市町村職員技術研修	4
(4) 研究発表会	4
(5) 大気汚染防止対策	5
1) 大気汚染常時監視テレメータシステムによる測定	5
2) ローボリウムエアサンプラーによる浮遊粒子状物質の測定	26
3) 大気汚染測定車「みどり号」による調査	27
4) 二酸化鉛法による硫黄酸化物濃度調査	28
5) TGSろ紙法による窒素酸化物（二酸化窒素）濃度調査	28
6) 湿性大気汚染調査	28
7) 浮遊粉じん中の成分調査	36
8) 環境大気中未規制物質調査	38
9) 煙道排ガス調査	39
10) 燃料油中の硫黄分調査	40
11) 悪臭物質調査	40
12) 騒音・振動調査	41
(6) 水質保全対策	51
1) 公共用水域監視調査	51
2) 事業所排水監視調査	53
8 誌上および学会発表抄録	63

2 調 査 研 究 報 告

1 雨水成分に関する調査研究（第6報）	65
2 環境大気中の未規制物質に関する調査研究（第7報）	72
— ベンゾ(a)ピレンについて —	
3 福井・坂井地区の窒素酸化物の分布および濃度変動に関する要因の検討（第10報）	80
— 気温変化の地域特性について —	

4	環境関連情報による地域環境特性の評価について（第4報）	89
5	水辺環境アンケート集計結果〈資料〉	108
	— 荒川（九頭竜川の支流）周辺の水辺環境についての住民意識調査の単純集計 —	
6	北潟湖の水質と植物プランクトンについて（第2報）	115

ノート

1	降下ばいじんの経年、経月変化について	125
2	事業所排水のBOD試験における植種液について	136
3	湖沼の透明度について	139
	— 北潟湖および三方五湖の測定値から —	
4	日射量等の変化について	143
	— 湖沼の生産を検討する場合の条件 —	
5	三方湖で発見した新プランクトン <i>Romeria elegans</i>	145